

篠路駅周辺地区 第3回検討委員会

令和4年1月31日（月）

札幌市
まちづくり政策局都市計画部
事業推進課

0 本日の内容

1. 前回の振り返り

1-1 第2回検討委員会でいただいたご意見

1-2 補足説明

<質疑応答>

2. まちづくり計画について

2-1 市有地・駅前のまちづくりの展開

2-2 地域主体のまちづくり活動の展開

<質疑応答>

3. 地域主体のまちづくり活動について

3-1 社会実験のご報告

3-2 次回の社会実験や今後の展開について

<質疑応答>

1.前回の振り返り

1.前回の振り返り

1 - 1 第2回検討委員会でいただいた
ご意見

詳細は 別紙1 参照

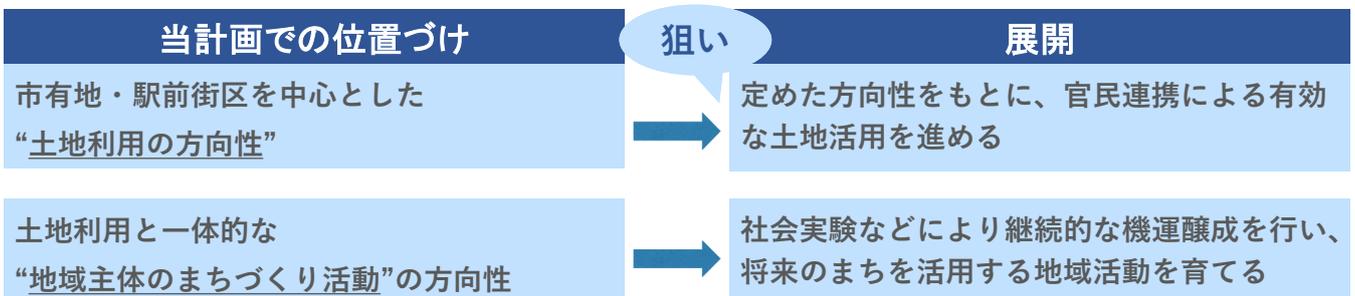
1.前回の振り返り

1 - 2 補足説明

5

1-2 補足説明

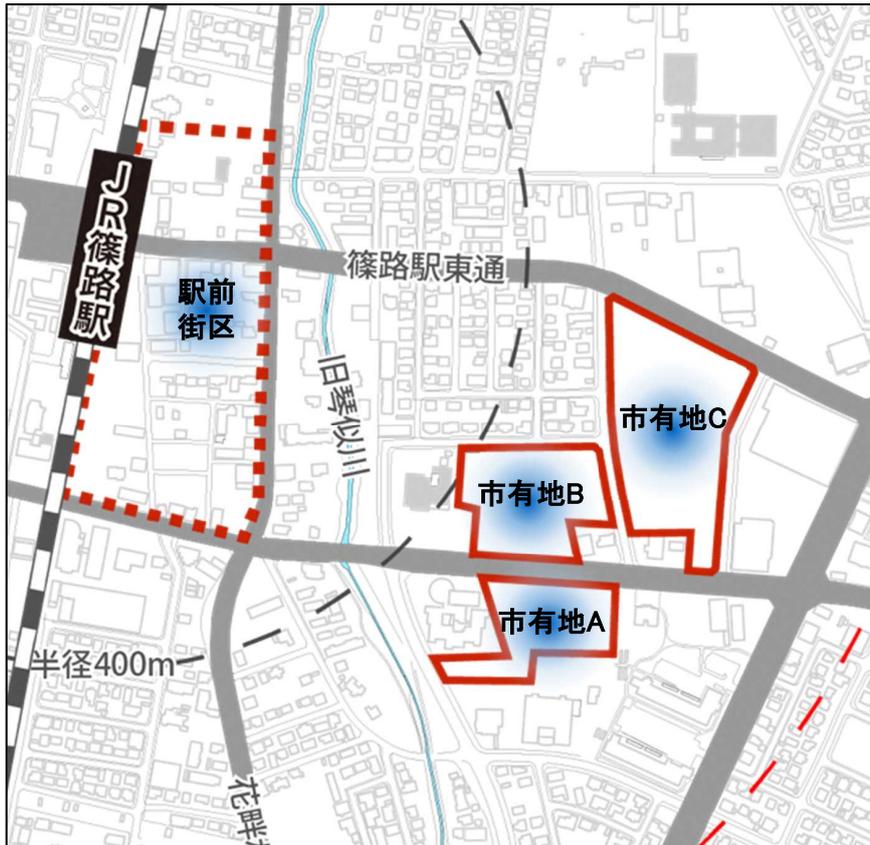
まちづくり計画の主題と策定意図（再確認）



6

1-2 補足説明

まちづくり計画の主題と策定意図（再確認）



7

1-2 補足説明

人口データ等について(地区の人口等)

篠路茨戸地区…篠路茨戸まちづくりセンター所管区域（篠路茨戸連合町内会の範囲）

人口：31,485人

世帯数：15,556世帯

高齢化率：31.1%（札幌市：27.6%）

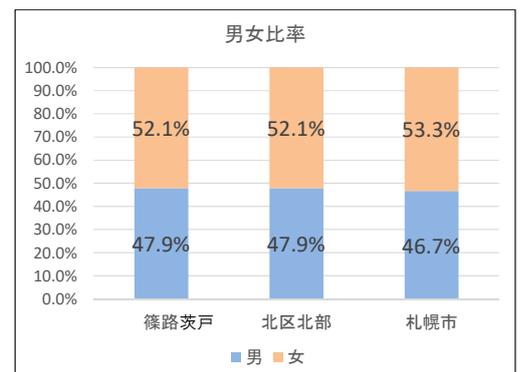
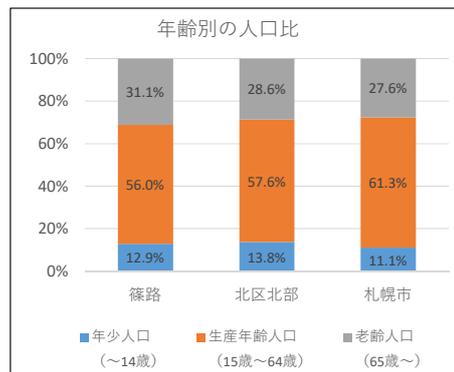
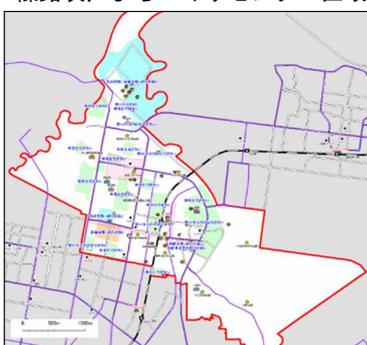
年少人口率：12.9%（札幌市：11.1%）

【住民基本台帳人口より,R2.10】

⇒ 1世帯あたり人口と高齢化率、年少人口率が札幌市の平均より高い

	篠路茨戸	北区北部	札幌市
人口	31,485人	83,551人	1,961,682人
世帯数	15,556世帯	39,298世帯	1,078,155世帯
1世帯あたりの人口	2.02人	2.13人	1.82人
高齢化率	31.1%	28.6%	27.6%
年少人口率	12.9%	13.8%	11.1%

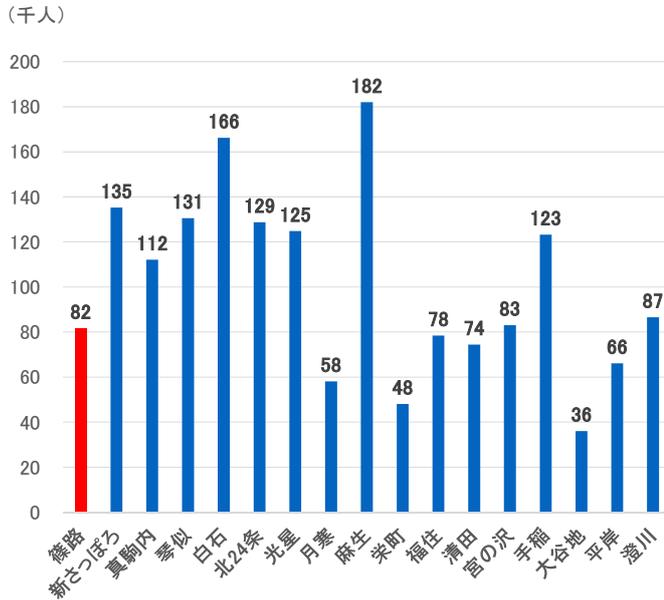
篠路茨戸まちづくりセンター区域



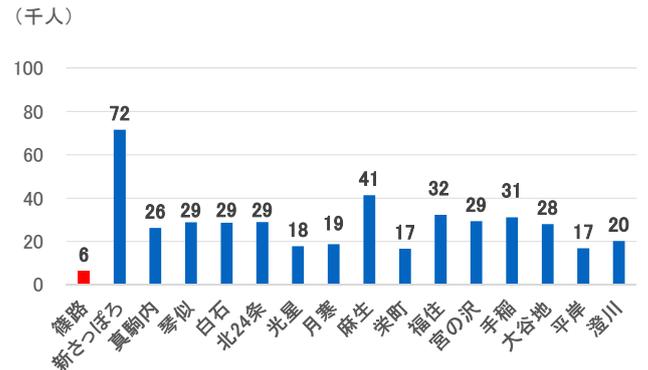
1-2 補足説明

人口データ等について(拠点ごとの比較)

地域交流拠点ごとの后背圏人口



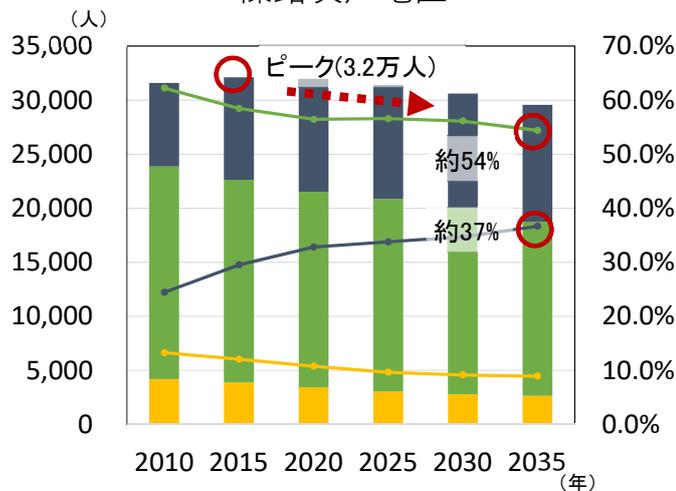
駅乗降者数/日(H30年)



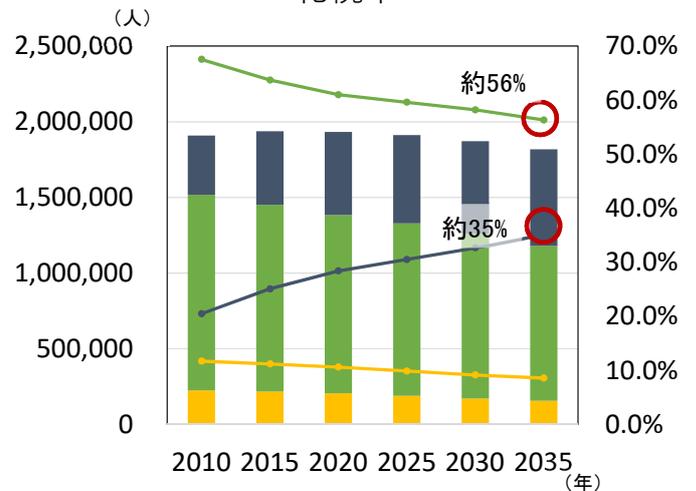
1-2 補足説明

人口データ等について(人口推移の将来推計)

篠路茨戸地区



札幌市



【ポイント】

● 人口減少局面に突入

✓ 2015年から20年で約2500人減少

● 高齢化の進展、生産年齢人口の減少が顕著

✓ 老年人口割合が増加、2035年には札幌市平均に比べ約2%高い37%になる推計

✓ 生産年齢人口割合が減少、2035年には札幌市平均に比べ約2%低い54%になる推計

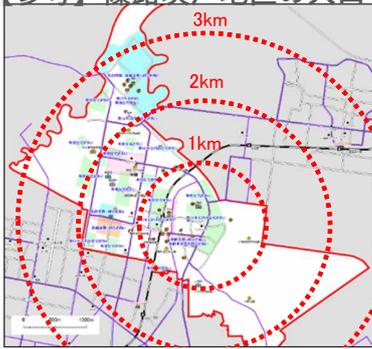
凡例

- 年少人口
- 生産年齢人口
- 老年人口
- 年少人口割合
- 生産年齢人口割合
- 老年人口割合

1-2 補足説明

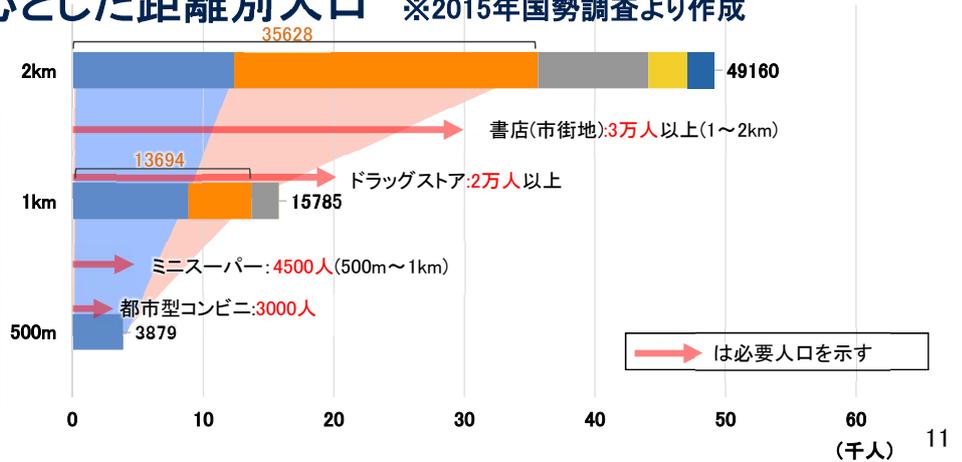
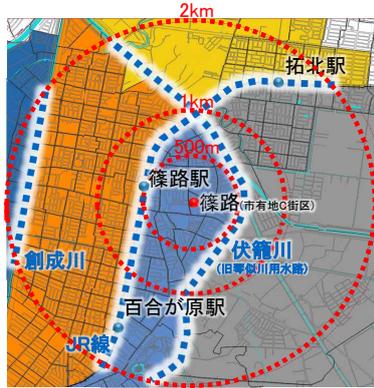
人口データ等について(商圈など)

【参考】 篠路茨戸地区の人口：31,485人



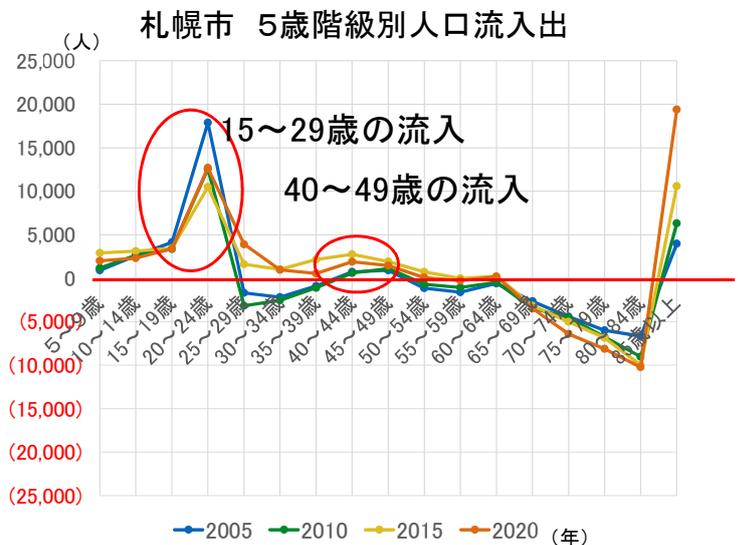
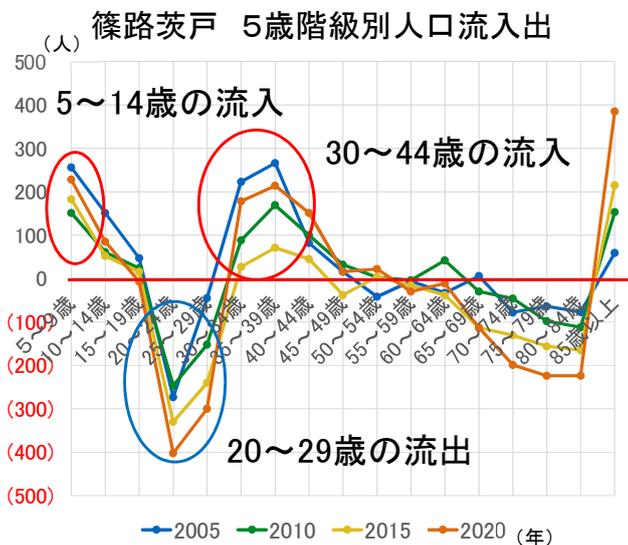
- ✓ 篠路茨戸地区全体では人口約3万人
 - ✓ 商圈バリアとなる鉄道、河川(東側は市街化調整区域を含む)で区分した場合の地区周辺の人口は青色のグラフ
 - ✓ 競合店もあるため、地区内への都市機能誘致を進める上では、地区のポテンシャル向上、鉄道高架による商圈人口の増加などが望まれる
- ※商圈は事業者のノウハウがあるため一般的な考えかつ書籍等の数値をベースに分析

市有地Cを中心とした距離別人口 ※2015年国勢調査より作成



参考資料

人口データ等の再掲・追調査 (世代別の増減)



【ポイント】

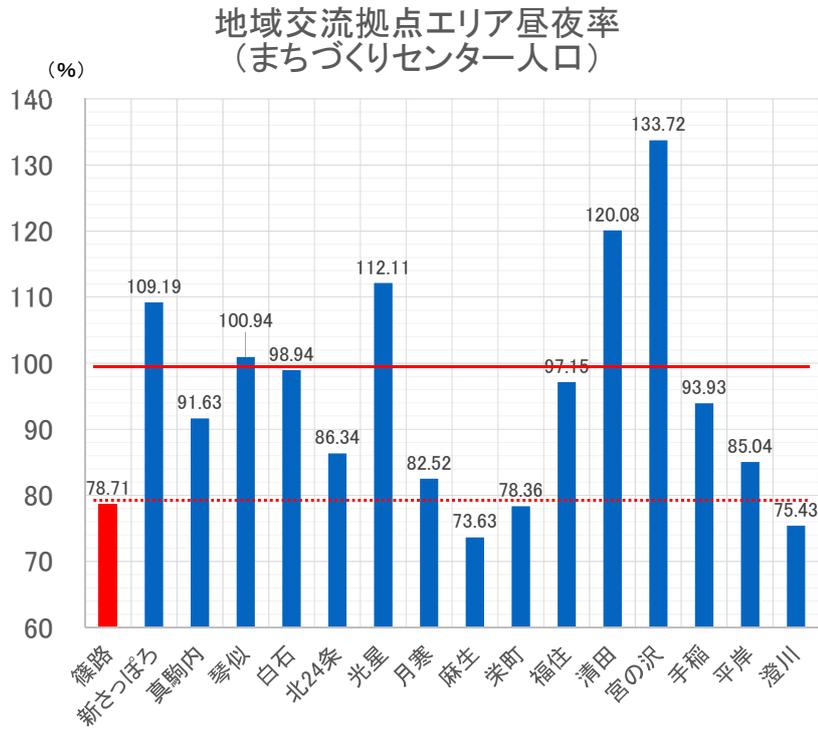
● 若い世代の流出

- ✓ 札幌市全体で20～29歳が増加傾向にあるのに対し、篠路地区では減少(流出)傾向

● ファミリー層の流入

- ✓ 札幌市全体と比べて、30歳～44歳が流入傾向に加えて、5～14歳の流入傾向が顕著

人口データ等の再掲・追調査（まち・駅周辺の利用）



2.まちづくり計画について

2.まちづくり計画について

2-1 市有地・駅前のまちづくりの展開

15

2 まちづくり計画について

まちづくりの展開(基本的な考え方)

まちづくりの考え方

段階的なエリア価値の向上



方向性の共有

段階的な整備と
多様なまちづくり活動

豊かで持続的なまち
魅力・コミュニティの発展

共有段階

協働段階

成熟段階

16

2 まちづくり計画について

まちづくりの展開(土地利用の展開の方向性)

考え方のポイント

重点エリアの現況や課題を踏まえ、①地区のポテンシャル、②地域交流・利便性、③地域の魅力を段階的に高めていく。

市有地A・Cの利活用

地区のポテンシャル向上につながる利活用

今後の周辺の土地利用の需要を誘発する機能立地が図られるよう、具体化に向けた検討を進める。

市有地B・駅前の利活用

まちづくりの進捗に合わせた柔軟な活用方法の検討

市有地A・Cの利活用や、社会基盤整備（鉄道高架、土地区画整理、道路整備）によって東西市街地の移動円滑化が図られ、地区のポテンシャルの向上がある程度見えた段階で、ふさわしい土地利用を検討・具体化する。

- まちづくり計画に即する機能立地の具体化（例：開発支援方策、企業誘致、事業者公募など）



事業推進の役割
行政主導

- 地権者や運営団体等との調整
- まちづくり計画に即し、契機を捉えた土地活用の検討・実現

- 地域住民やまちづくり活動との連携
- 公共貢献の誘導・調整（例：条件付きの契約・公募要項など）



想定される
官民連携

- 地域住民やまちづくり活動との連携
- まちの空間管理・運営面も含め、民間活力を活かす手法の検討・具体化

17

2 まちづくり計画について

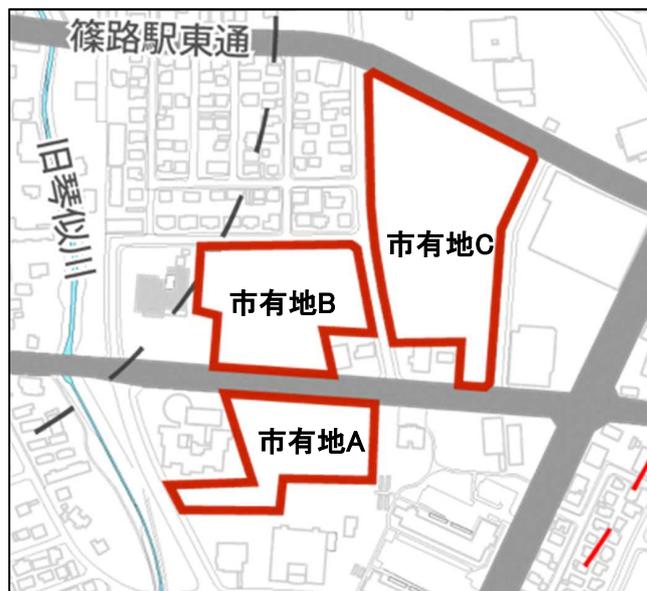
まちづくりの展開(市有地)

市有地A・B・C (にぎわい・交流・福祉ゾーン)

特に期待される機能例 (再掲)

- 家族で利用できる商業・レジャー機能
- 子育て世代のサポート・交流機能
- 就労者や学生を地域に呼び込める機能
- 周辺環境と連携した医療・福祉機能
- オープンスペースなどの広場・交流機能
- 居住機能など周辺と調和が図れる機能など

社会基盤整備による効果を最大限引き出すため、地区のポテンシャル向上の早期実現に寄与する機能（関係人口や定住人口増に資する機能）誘致を優先



※今後の土地利用の展開に合わせて、民間事業者と連携しノウハウを活かしながら、地域のまちづくりに資する空間や活動展開を模索

18

2 まちづくり計画について

まちづくりの展開(市有地)

市有地A・B・C (にぎわい・交流・福祉ゾーン)

今後の展開方針

地区の**活力創造および関係人口・定住人口増加**につながる利活用を、民間活力を導入して展開します。

また、整備に当たり、**地域交流拠点にふさわしい公共貢献を誘導**していきます。

配慮事項

- 周辺環境との連携・調和
- 導入する機能に応じた都市計画手続き、規制緩和の検討

民間活用にあたっての公共貢献例

● 憩いの場の創出

例：地域住民も利用できるカフェや屋外休憩スペースの設置など



● 地域イベントへの参加・協力を通じた地域交流の促進

例：駐車場のイベント活用
地域住民が参加できるイベントの実施など

● その他社会貢献活動・地域との連携

など

19

2 まちづくり計画について

まちづくりの展開(駅前)

駅前街区 (利便・交流ゾーン)

特に期待される機能例 (再掲)

- 買い物施設や飲食店などの商業機能
- 多世代が集まり交流できる機能
- 生活利便性の高い駅前居住機能
- 交流の拠点にふさわしい地域の情報発信機能

空間イメージ

魅力的な
店舗



多目的に
利用できる
広場



今後、地権者や事業者と機能例や空間イメージ、社会実験での検証結果を共有しながら具体化に向けて検討

20

2 まちづくり計画について

まちづくりの展開(駅前)

駅前街区 (利便・交流ゾーン)

今後の展開方針

駅前街区は地区の玄関口である駅前広場に面することから駅前広場との連携により、拠点機能の向上が期待されます。地権者と協働しながら、駅前街区には交流・にぎわい機能の導入に努めます。

配慮事項

- 地権者の協力を得ながら、目指す「まちづくりの方向性」の実現検討
- 市の都市計画やまちづくり関連方針への配慮
 - ✓ 導入する機能に応じた都市計画手続き、規制緩和の検討
 - ✓ 「立地適正化計画の考え方」や「札幌市市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的方針」などを考慮したまちづくりの総合的検討
- その他地域意見の反映
 - 例 夜間の安心・安全の確保（明るい通りの形成）など



21

2 まちづくり計画について

まちづくりの展開(具体化段階で検討すべき事項)

まちづくり計画

まちづくりの方向性の具体化（都市計画提案、官民連携のまちづくりのあり方、事業者等の募集方式、開発支援方策）における規範となるもの

駅前エリア

(駅前街区活用具体化)

東エリア

(市有地活用の具体化)

エリア全体

(駅前街区や市有地を中心とする多様な空間)

- 「交流・にぎわいの場」の整備手法と整備主体
⇒例：民間開発、官民連携による整備
- 「交流・にぎわいの場」の管理、運営の担い手
⇒例：指定管理者、都市再生推進法人、道路協力団体などの担い手組織の検討
- 「交流・にぎわいの場」を地域が主体となって継続的に活用する仕組みやこれを支える仕組みの検討
⇒例：活用ルールやガイドラインの策定、地域団体との連携など

22

2.まちづくり計画について

2-2 地域主体のまちづくり活動の展開

23

2 まちづくり計画について

まちづくり活動の展開

みんなの思いおよび地域協議会の内容を踏まえて次の3つをもとに今後の活動を展開していきます。

また、市民ニーズや地域活動の機運を確認の上、社会実験などによるまちそだてを検討していきます。

(1) 多世代が交流する笑顔あふれるコミュニティを創出する

新たに創出される交流・にぎわい空間をはじめ、地域にある多様な場所を有効に活用

多世代が交流する地域コミュニティの創出

地域にある多様な空間で活動を展開



(2) 他地区に誇れる地域の魅力を最大限に活用する



24

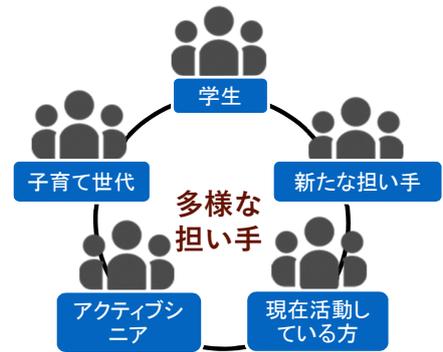
2 まちづくり計画について

まちづくり活動の展開

(3) 駅前街区や市有地の土地活用にあわせた地域が主役のまちづくり体制を検討

持続可能なまちづくり体制

- 地域の人活動しやすい
- 新たな担い手も活動できる
- 多様なアイデアが生み出される
- 活動する人も他の人も楽しめるなど



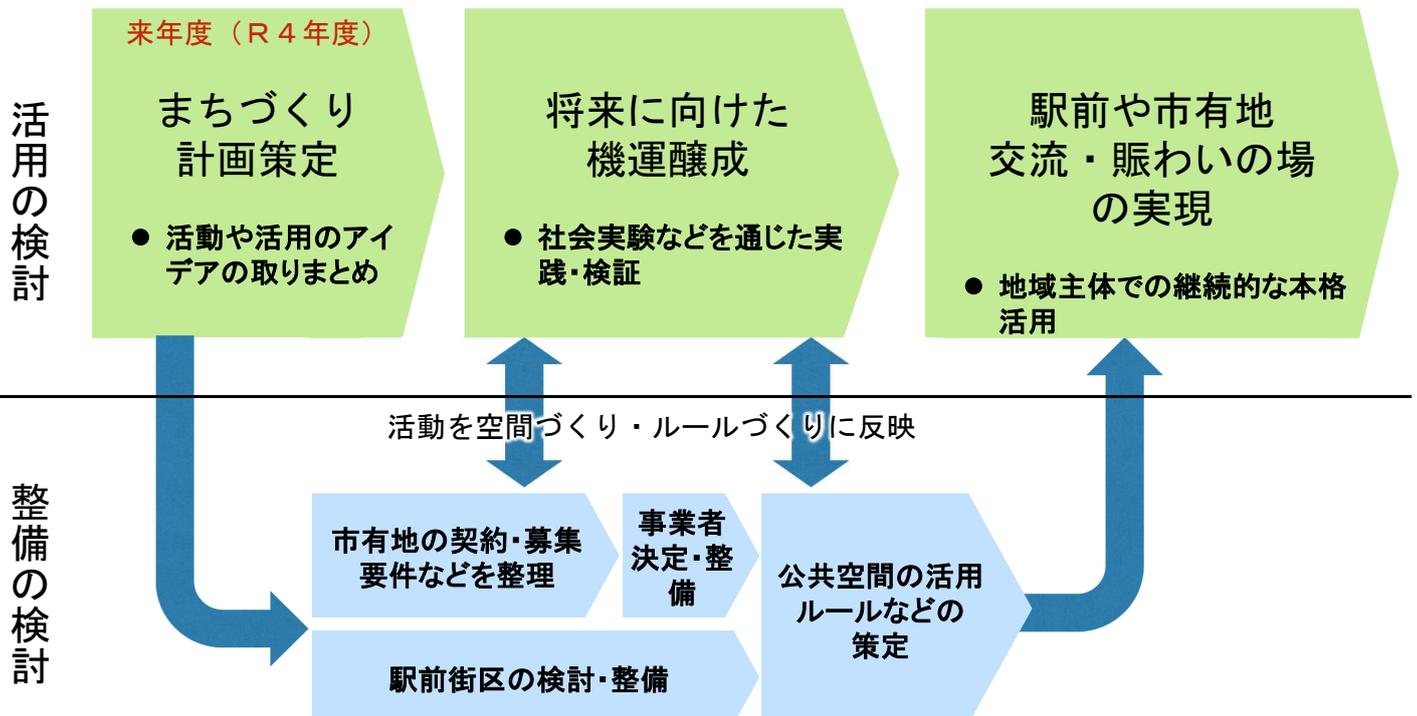
<まちづくり方針図ー多様な場所での多様な地域活動により機能連携が強化>



25

2 まちづくり計画について

計画で目指す地域主体のまちづくりのロードマップ(長期)



26

2 まちづくり計画について

地域主体の活動・取組イメージの共有

これまでの地域活動に関するご意見

これまでのアンケート
やワークショップ

地域協議会
検討委員会

社会実験での
アンケート

地域が求める主な活動・取組イメージ(次ページ以降)

まちづくりに
反映

今後、これらを市有地や駅前街区をはじめ、篠路に求められる将来イメージ(活動・取組)とし、進出事業者や重点エリア内の地権者など関係者と共有し、土地利用の具体化を検討する際の材料とする。

求められる
機能の検証

整備イメ
ージの具体化

社会実験
の継続

篠路の将来像を実現するために継続実施予定。空間像の具体化と、まちづくり活動の機運醸成を目指す。

27

2 まちづくり計画について

地域主体の活動・取組イメージの共有

キッチンカー
マルシェ
朝市・直売所
蚤の市
地域の出店



お祭りなど
地域イベント



市民活動・学生
・子どもの発表



伝統・文化を
伝える体験
・学びの機会



28

2 まちづくり計画について

地域主体の活動・取組イメージの共有

集う場所
くつろぐ場

例1
広場×テラス席



◆交流コンテナ



◆読書コンテナ



◆チャレンジコンテナ



子育て世代の交流
多世代交流

例2
多様なコンテンツ

バスケットコートなどス
ポーツ関連

ランタンや七夕の短冊
づくりなど、
季節に応じた企画

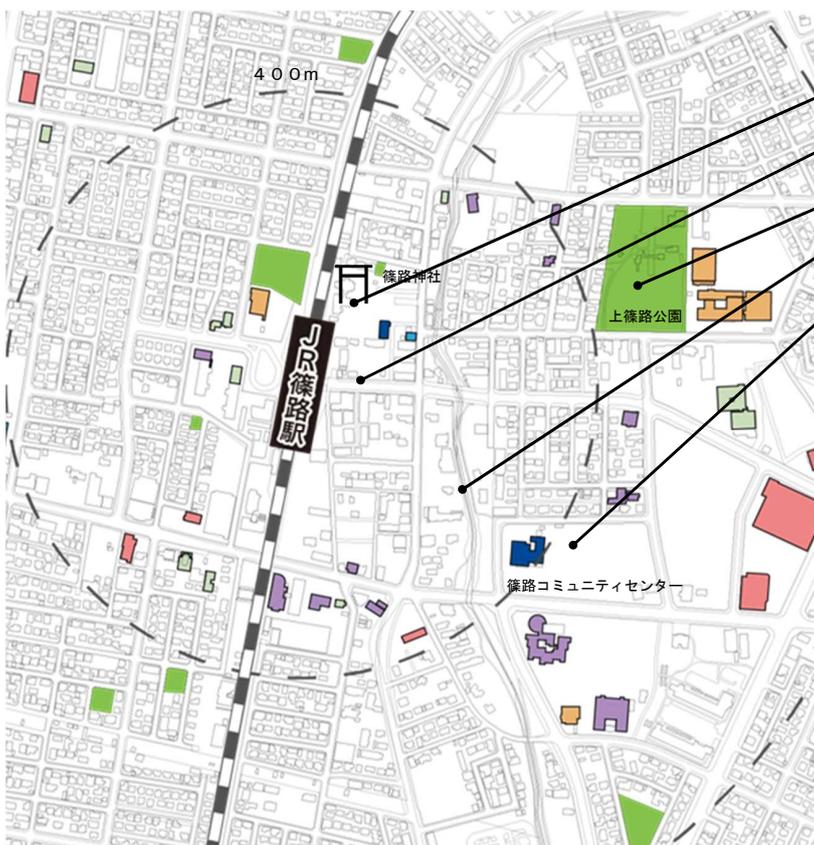
学生や住民による
企画・研究発表

倉庫などまちの
資源を活用した
企画・イベント

29

2 まちづくり計画について

まちづくり活動の展開(例示)



既存の活動や取組

- 篠路神社例大祭
- しのろ紙袋ランタンまつり
- しのろばらと夏まつり&盆踊り大会
- 美化活動
- スノーフェスティバル

今後期待される新たな活動や取組

- キッチンカーフェス
- マルシェ・朝市・産地直売
- フリーマーケット
- 市民活動の発表の場
- 河川空間の活用
- 学びの機会・子どもが参加できるワークショップ

など

30

2 まちづくり計画について

まちづくりにおける協働の考え方



地域住民

- ・ 様々な場所、アイデアで地域の魅力を高める活動・取組を展開していく
(基盤整備や駅前・市有地の開発等に伴い創出される新たな空間も活用)



企業

- ・ 地域のまちづくりに資する開発を行う (特に駅前・市有地)
- ・ 地域の活動、取組を支援する
- ・ 地域とともに、魅力を高める活動・取組を継続していく



行政

- ・ 社会基盤整備を進める
- ・ 民間企業との連携、市有地や駅前への機能集積を進める
- ・ 地域の活動、取組を支援する

各計画の記載内容と実施主体の整理

計画	項目	地域	企業	行政
既存計画	社会基盤整備	△	△	○
今回のまちづくり計画	駅前街区の利活用	△(地権者は○)	○	○
	市有地の利活用	△	○	○
	地域主体のまちづくり活動	○	○	△

31

2 まちづくり計画について

第3回地域協議会でのご意見(まちづくり計画についてのご意見)

詳細は 別紙3 参照

32

本日の説明のポイント

1. 今後の展開の基本的な考え方、土地利用の展開の方向性
2. 市有地と駅前街区の展開方針、配慮事項
3. まちづくり活動の展開、まちづくりにおける協働の考え方

について、ご質問・ご意見があればお願いいたします。

3.地域主体のまちづくり活動について

3.地域主体のまちづくり活動について

3 - 1 社会実験の報告

35

1 - 3 社会実験の報告

社会実験の実施概要

【実施期間】

2021.10.31～11.7（8日間）

【目的】

将来の活動を踏まえアイデアを試行的に実施
⇒場の可能性や空間利用の需要を検証

【内容】

- 小さな芝生広場
（人口芝＋テーブルやイス）
- キッチンカー
- 地域と連携した取組
- トークイベント

【実施場所】



36

1 - 3 社会実験の報告

社会実験の結果概要・考察

来場のきっかけ（複数回答可）

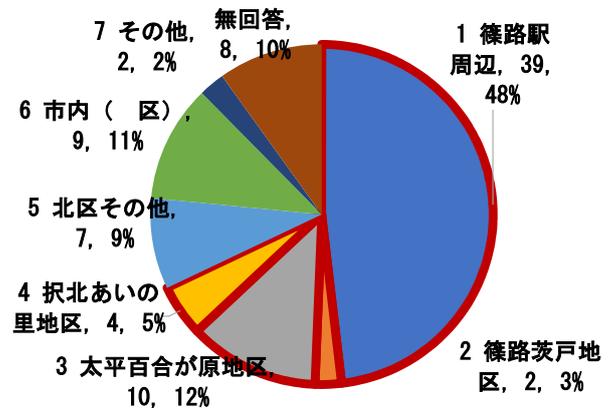
周知

- 新聞折込チラシ：約27%（22名）
範囲：篠路駅周辺（中西販売所配達エリア）
- 町内会回覧（シノロナビ）：約6%（5名）
範囲：篠路茨戸地区、太平百合が原地区
- 学校へのチラシ配布：約7%（6名）
範囲：篠路小学校、篠路西小学校、篠路中学校、篠路西中学校
- ポスター提示：約10%（8名）
範囲：JR篠路駅、スーパーアークスノース、駅前郵便局、まちづくりテラス和氣藍々
- Facebookページ：約9%（7名）
- 札幌市HP：約9%（7名）・・・など

その他

- インスタグラム：約12%（10名）
 - 知人から聞いて：約7%（6名）
 - 通りがかりに知った：約4%（3名）
- ・・・など

居住地



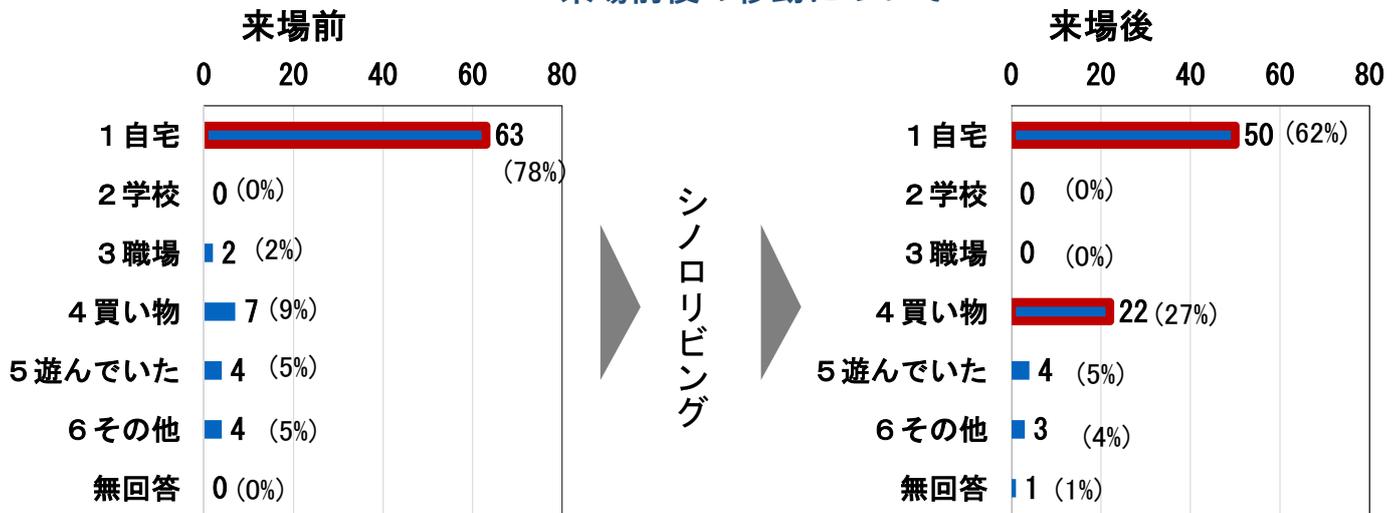
来場の手段（複数回答可）

- ① 自動車：約46%（37名）
 - ② 徒歩：約41%（33名）
 - ③ 自転車：約9%（7名）
 - ④ JR学園都市線：約5%（4名）
- ・・・など

1 - 3 社会実験の報告

社会実験の結果概要・考察

来場前後の移動について



来場の目的（複数回答可）

- ① 飲食のため：約80%（37名）
 - ② 面白そうだったから：約27%（33名）
 - ③ 休憩・くつろぐため：約17%（7名）
 - ④ 視察のため：約14%（11名）
- ・・・など

社会実験の結果概要・考察

空間利用は？

- 8日間で計約400人が利用
- 休日の日中の利用がほとんどで、平日や夜間の利用はほぼ無かった
- キッチンカーがある時間は広場の利用者がいたが、キッチンカーやワークショップがないと利用者はいない
- 子供向けのワークショップ、フリーマーケットなど求める声
- 次は6、7月など暖かい時期にという意見

運営面は？

- キッチンカーの売り上げは良好
- 利用者の活動や出店者の声から場のデザインの重要性を（再）確認
- こういった場を求めていた、続けて欲しい、参画したいという声も

意向調査は？

- 8日間で計81人からアンケート回収
- 篠路駅周辺からの来場が約50%で、北区その他地域からの来場が25%であった
- 徒歩と自動車利用が半々程度
- 回答者年齢は30~40代が最も多く次に、50代、20代と続く
- 回答者は「家族と」・「子供と」と一緒に来場する方が多い
- 満足・まあ満足が約67%でだった
- 広場が必要と答えた方が約80%
- 活用してみたいと思う、まあまあ思うが約70%

【考察】



- ・ “交流する場”が欲しいという需要が潜在的にあることが分かった
- ・ 一方、開催日や内容によって大きく需要が異なるなどの課題も明らかに
- ・ 社会実験による気づきを重ね、場の形成への反映と取組や担い手を徐々に育てていくこと(まちそだて)が重要

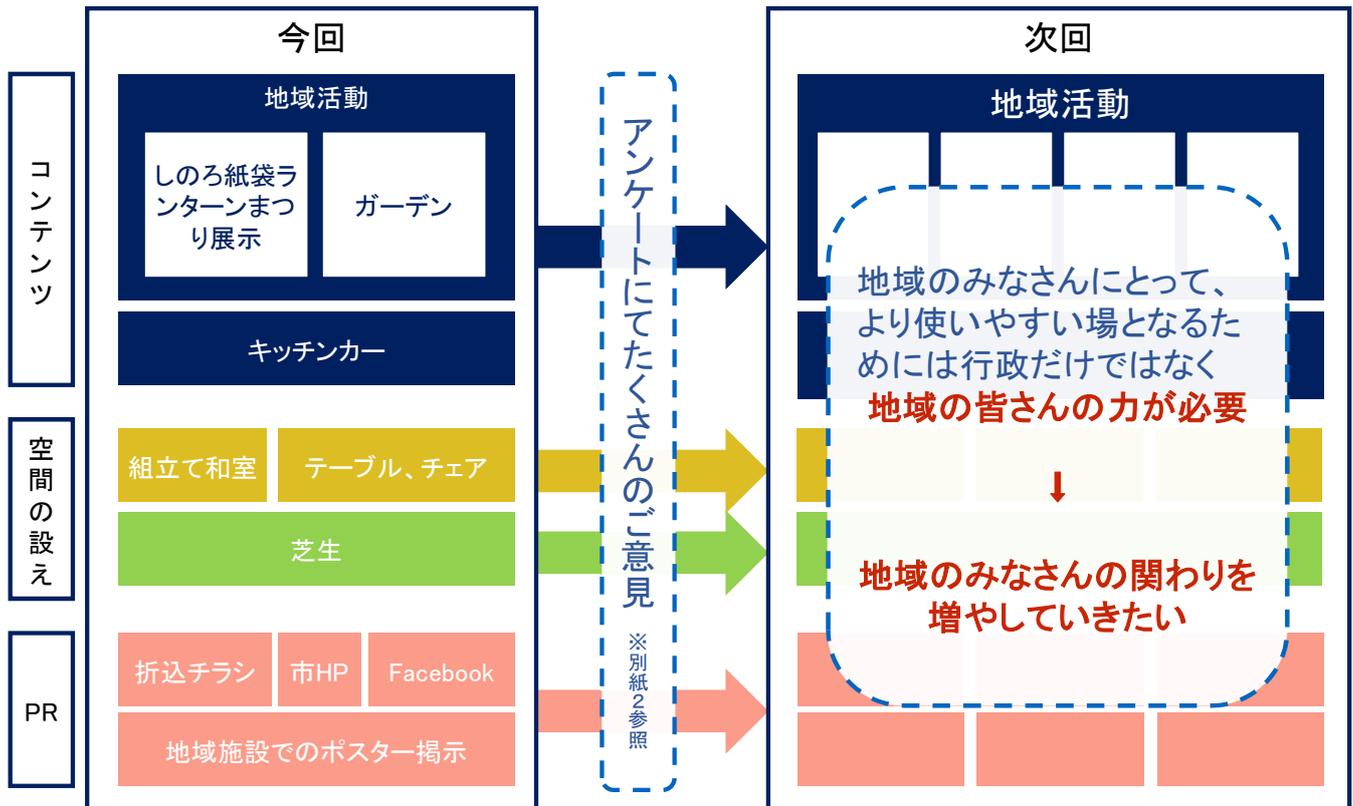
詳細は 別紙2 参照

3.地域主体のまちづくり活動について

3-2 次回の社会実験や今後の展開について

3 次回の社会実験に向けて

地域主体の活動・取組イメージの共有



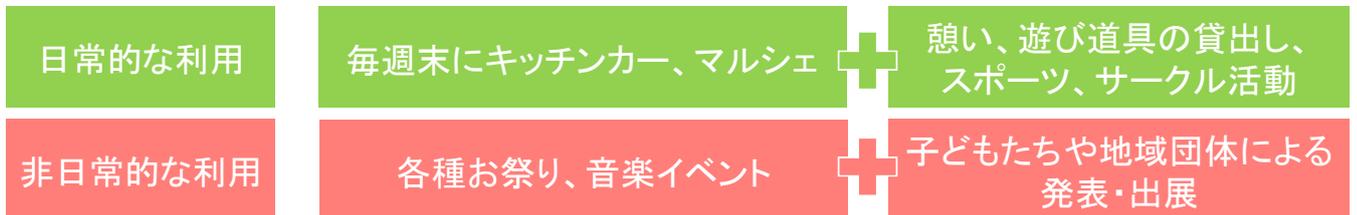
41

3 次回の社会実験に向けて

社会実験について考えるポイント

将来 地域住民が年間を通じて気軽に行きたくなる、交流・にぎわいの場

活用の例



現在 将来のために、社会実験などを通じて様々なことを試してみる

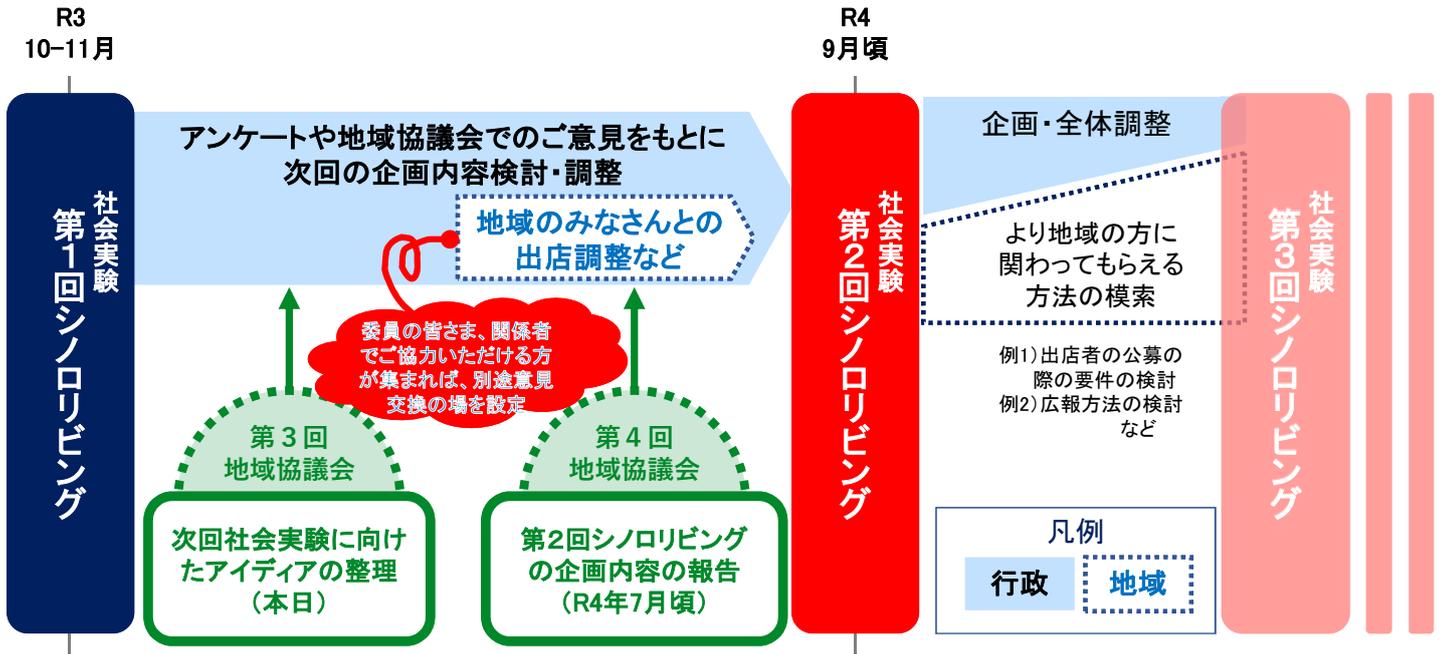
ポイント

- 平日の昼間、平日の夜、休日にそれぞれどんなことをやるか
- 継続的にできることは何か（お金をかけず、かつ簡単に）
- 子ども、学生、子育て世代、高齢者等はそれぞれどんなことに興味があるか など

42

3 次回の社会実験に向けて

次回の社会実験を見据えたロードマップ(短期)



43

1 - 3 社会実験・地域協議会の報告

地域協議会の経過

事前説明の実施概要

- 時期：令和3年12月
- 概要：社会実験の報告、次回に向けたアイデア

分類		ご意見の概要	
開催方法について		<ul style="list-style-type: none"> ● 広く告知して参加団体を募集する ● 回覧で出店者や出し物をする人を募る ● 倉庫の間の通路を使う ● 出張所や篠路神社の駐車場も一体利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昼と夜で出店者を変える ● 地域団体で出店する ● <u>屋内空間を使う (仮設でもよい)</u> ● <u>くつろげる場所として東屋を作る</u>
取組のアイデア	小中学校、高校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● プラスバンド部、演劇部の発表の場とする ● 小学生が何をするか考えて実施する企画 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>茶道部によるWS (くみたて和室との連携)</u> ● 小中学生の発表の場 (歌や踊りなど)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>本の貸し出し、交換型本屋</u> ● <u>藍染の文化や取り組みを伝える</u> ● 阿波踊り ● しのろくじ (くじ×篠路の歴史紹介) ● フラダンスサークル等の発表の場 ● 昔の遊び (コマ、メンコ等) を高齢者からこどもへ伝える ● ラジオ体操 (世代間の交流ができる) ● 高齢者でも遊べるもの (ポッチャ、パークゴルフで行うビンゴ、ボウリングなど) ● 七夕の短冊づくり ● <u>ランタンWSで作ったものを夜展示する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地元野菜の販売</u>、野菜の歴史を学ぶ取組 ● 駅前施設を利用したお化け屋敷 ● <u>倉庫を使ったプロジェクションマッピング</u> ● 若者に加えて高齢者でも楽しめるキッチンカー (焼き鳥、そばなど) ● 子育て世代向けの体験型の取り組み (ピョちゃんタイムなど)

44

3 次回の社会実験に向けて

第3回地域協議会でのご意見(次回以降の社会実験について)

詳細は 別紙3 参照